

『使用日記（明治30年）』

タイトル	『使用日記（明治30年）』
著者名	能海寛
雑誌名	能海寛研究会機関誌『石峰』
号	第12号
ページ	29-51
発行年	2006.2.15
E-mail	Sekihou@hazaway.com(能海寛研究会)

ISSN 1883-4183



中国僧姿の能海寛

能海 寛 略歴

能海寛 法名法流。石峰と号す。明治元年5月18日島根県浜田市金城町長田（当時は東谷村）浄蓮寺に生まれる。12歳で得度し、慶応義塾と哲学館に学ぶ。恩師南條文雄師の意思を継ぎチベット探検の論文『世界に於ける佛教徒』を発表すると共に語学の研究と山岳登山による体力の練磨をなす。郷里にあつては地方史を編纂して和歌を詠み、益田沖の高島にて寺小屋を開設する。哲学者、探検家、宗教家として釈迦祇伝の大藏經の經典を求め英訳經典世に出ず目的で当時領國中であつたチベットへ求道のため身を挺し仏教巡礼探検を実践した功績は偉大で有言実行と用意周到さは後世に幾多の教訓を残す。その苦難の34年の生涯に「般若心經」西藏文直訳（梵・藏・漢・英）など四巻が著書として永遠に伝う。

使用日記（明治30年）

能海 寛

《明治30年》

失望の日に善を言いて得意の時に悪を行うは小人匹夫の常なり。君子は則ち然らず。凡そ其の所信を言行に表するや境遇の順逆を以って変ずること無く、順逆に際会するは寧口益々謙譲を守る。是れ此を君子の道という。



「使用日記」の表紙

1月1日（金）

○六時起床。○麦生より書留着く。○桜井よりはがき着く。
○1岡本、2善徳、3正乃、4最勝、5麦生、6深井、7秋津、
8桑門、9子安、諸氏へ手紙、はがきを出す。○七里君来談。
○白山君来談。

1月2日（土）

○五時起床。○午前九時に出宅し、北条を訪ね、本郷の西依に至り京都行を送る。大いに本山政論（注1）を語る。世界時言社に伝言する。○井上円了氏へ年始に行く。○反省会へ年始に行く。○白山へはがきを出す。○兄より書面着く。

1月3日（日）

○五時半起床。○安本君初めて来談。○旭野君来談。○今川君来談。○水野よりはがき着く。○夜、万長亭（注2）に掛太夫外茶里太夫等の浄瑠璃を聞く。南條に従う。

1月4日（月）

○五時半起床。○「枳橘易土集」（注3）附録第二巻書出しを始める。四枚。○蔵文典を自脩する。三頁。
○麦生来訪、共に四谷郵便局へ行き為替を受取り大久保公園で散歩する。

1月5日（火）

○五時半起床。○枳附書出し。三枚。太田教尊君来り、英文、南海、傳中、鳳訳のこと等の話を聞く。
○蔵文典を自脩する。十頁。

1月6日（水）

○五時半起。○午前ラリタ講。（牛）尾盤山（ゴーラングーラパリバルタナ）初回。○白山来る。○枳附書出し。三枚。

1月7日（木）

○枳附書出し。四枚。○ラリタ下調べをする。○鳳訳の逸事英文を写し反省社へ送る。○入湯。○岡本、麦生より、はがき二枚着く。○中島来られ親鸞真傳のことを頼めり。

1月8日（金）

○枳附書出し。四枚。○午後、製本屋へ使いに行き、その他、用事の為、丸で勉強出来ず。又、夜分は眠りて少しもせず。

1月9日（土）

○午前ラリタ講。白山来る。○降雪一寸積る。○白山君より宗教雑誌を送られ、これを読む。比較宗教学会の記事あり。

1月10日（日）

○蔵文典四、五頁読むのみ。外には一定の課業をなさず。○先生名古屋行きのため出発。○入湯。
○夜分春君へ宛、春谷、兄上、父上へ三本の書状四枚出す。但一封。○兄上へ本山年中行事を郵送する。

1月11日（月）

○枳書出し（改二）書き込み。十五枚。○桜井、中島来訪あり。○皆乗より書面着く。返信を認める。
○皇太后、陛下御不例の号外発行。◎午後五時五十分崩御。十二日記事（兄法言よりはがき。善徳寺よりはがき着く。）

1月12日（火）

○本日午後三時頃崩御の号外出る。○午前十一時中嶋氏へ行く。佐竹得成様に面会し御開山聖人傳を聞くこと委し蓋し。日本第一の明細傳識強記の人なるべし。祖師の傳掌を見るべし。七時帰る。○上田来る。○都新聞皇太后不例の報を国へ送る。○皆乗へ手紙を出す。只徳寺、麦生へハガキを出す。

1月13日（水）

○時事新報、皇太后御崩御記事あり国へ出す。○枳書出（改三）書き込み。十枚。○昨日より「世界に於ける佛教徒」第二編著作の精神を発し、大に計画す。○桜井来訪する。反省会雑誌欧文出来寄贈される。○浄蓮寺、寺史起稿の念を起し、大いに計画する。

1月14日（木）

○枳書出（改四）書き込み。六枚。○「世界に於ける佛教徒」の稿を起し、第一章、宗教革命の気運至れることを草す。○西依京都よりはがきを送る。○昨夜降雪。今朝六寸積る。○浄蓮寺、寺史第一段より第七段まで編纂する。

1月15日（金）

枳書出（改五）書き込み。十二枚。連雨、区役所に、二度行くも道は泥まみれ。石田喜三郎氏、安藤鉄腸君外二名。右二通のはがき着く。

1月16日（土）

○曇、午後晴れ。○電報を打ちに行く。○国へはがきを出す。国旗の事。○寺史第八段より十二段までの稿を施す。○中嶋氏来訪。

1月17日（日）

○寺史、新に第三、四、五、六段を書く。八時発、小石川表町百九、久松閣に垣山君を訪ねる。白山前に酒生外を訪問するも留守。境野訪問。傳中、松田へ正月礼に行き餅を頂く。途中、初音町に貫道庵旧跡を訪ね、神社の遠望を試みる。築地壱丁目式番地の宮嶋に至り、芝琴ヶ平町三の麦生を訪ね、午後八時帰る。麦生より書面着く。○昨夜大地震。

1月18日（月）

○白山君京都市行きの為来訪。○寺史続稿、第十五段まで書く。○雨降。第十三段より。

1月19日（火）

○午前、先生名古屋より帰宅。御話を承り、又電報来り、京都の状況大いに明らかなり。○中山理賢へはがきを出す。○「枳橋易集」廿六巻終る。即ち本部終わる。其間、百二十三日を費す。但し、休日を除く。○寒冷雪少々降る。○寺史続稿。

1月20日（水）

○枳附書出し。五枚。○寺史続稿。○南條より色々改革談□る。岡田良平来り、井上円了氏より井上伯に本山鎮圧を頼む件をいう。

1月21日（木）

○桑門氏へ書面出し、厚演上辞職を申し送る。○古田君来訪、大いに朝鮮開教篇等を論ずる。○寺史続稿。○夜、上田来る。○本山、上田へはがきを出す。

1月22日（金）

○キフ四枚。○寺史序文書く。

1月23日（土）

○キフ四枚。三巻始める。○寺史附録編。○本山より余を中学寮舎監に招聘するも不応。午後八時から

九時迄大井君。二井や〔新井屋〕焼失、廿八日の朝知る。

1月24日(日)

○午前寺史完結。○午後、弥生館経緯会へ行く。○北条の処に寄り、本田、小林、境地、予と五人で大会食。○明清寺より書面着く。○東光(朝鮮)よりはがき着く。

1月25日(月)

○キフ三枚。○客あり。○書面を確認する。

1月26日(火)

○キフ二枚。○白山より、はがき着く。○安藤鉄腸へはがき答飛檄。○麦富へ書面。○築地へ書面。○剃髪。○白山へはがき出す。

1月27日(水)

○ラリタ写。○晩芝兼房町菊池へ行く。本日、正午出発京都へ行く。山口という人に面して帰る。

1月28日(木)

○白山君よりはがき着く。○兄よりきがき。26日大井谷、新井屋火事通知あり。又、金受取る。○キフ三半。○白山来訪。京都市行き話を承り大いに本山政策を談話する。

1月29日(金)

○朝、愛宕下町より書面着く。○先生揮毫待てり。本山政論を談せり。○キフ二半。

1月30日(土)

○孝明天皇30年祭阿弥陀経読誦。○梵文大経始める。先生直講。○安本、麦生来訪。入浴中。○高楠、奏来訪、先生と共に四人宝洋食亭に行き種々の談話を聞けり。○キフ一枚半。○大井谷、新井屋(火事見舞出す)。

1月31日(日)

○朝鮮京城本願寺別院東光憲雄へはがき出す。○大和国高市郡今井町御堂筋西、藤堂哲へはがき出す。○上田来訪金を渡す。○斎藤繁人より書留着く。○芝区愛宕町二丁目13番、伝染病研究所へ書面出す。午後4時。○三省堂主人亀井来訪。○夜より降雨で寒し。

○休日。第十号(N o. 20)。

2月1日(月)

○雨天。○水野より革新事情印刷通信三枚郵送される。○麦生政一よりはがき着く。

○松の月 雁のたよりや 鶴のくび

○キフ一枚半。○今年の、今日頃は雪を冒しめ麦富を訪ね、東上の相談快悟中なりき。

2月2日(火)

○午前十時発、泥土を冒しめ青山に至り十二時。恐れ多くも皇太后殿下の御発柩を拝送し、上る道中及び青山にて四回も涙す。○白山へはがきを出す。○北条君来訪。○反省雑誌着く。○白山よりはがき。○水野よりはがき。○文まなぶ学者も、今はぐちこぼす。

2月3日(水)

○芝区病院よりはがき着く。○反省会よりはがき着く。○村上氏、大学生四人、来訪。○古田君来訪。○中河内、政一、水野、明清寺、反省会、以上五通のはがきを出す。○大経梵講一時間、第二回。○西依へはがき。○「ツランクハバ」の傳訳を始める。

2月4日(木)

○郵便局へ行く。○梵大経第三回、一時間三項まで。○キフ三枚。○入湯。○白山へはがき出す。

2月5日(金)

○キフ三枚。○白山よりはがき着く。○三省堂より英和辞書を呉れる。○梵大経第四回。

2月6日(土)

○午前白山来り「ラリタ」遣る筈の処、来客の為なかりき。○午後、上野顕松亭に高楠歓迎会あり、35～6人写真撮る。白山同道往復。

2月7日(日)

○日曜休業。○上田、麦政、金を受取りに来る。○午後、法苑珠林など読む。○渡辺海池、水野へ二通はがき出す。

○種痘しらべ巡査来る。

2月8日(月)

○キフ四枚。○大経梵第五回。

2月9日(火)

○キフ一枚。○大経、村上講第六回偈文。○午後八時築地より書面着く。○夜、麦生来て金を渡す。



高楠順次郎帰朝歓迎会記念写真

2月10日(水)

○「ラリタ」あり白山来る。○近辺用事。○先生より法主(親展書差上げらる)。

○皆乗より書面着く。

2月11日(木)

○朝四時半、四ッ谷大横町火事。○古田の立花、中島夫婦、大場、白山、家等の客来たりて報恩講取り延べ執行。夜六時散会。晴れ。

○○○は小人也。今日二回、高楠と中島に向いて、予を暗にノノシルくそ馬鹿めが、はらが立ってたまらぬ。

2月12日(金)

○キフ二枚。○登初(注4)へ書面出す。○下調に感心するときのなし。○予は今日求むる処は只徳者なり。今日の世には一人もなき目白の訪れんと思う心七・八年前よりあり。これ一つのみ、前は外国のみ。

2月13日(土)

○渡辺よりはがき着く。○梵大経第七回当具説、これまですむ。○その後は郵便局へ小使、風呂等の外は墨摺りにまるまる。夜十時まで何の始まる処なく暮らす馬鹿らしきこと限りなし。嗚呼天向う尤情なる何う予に不幸のみ多きや人世ああ、いや、いや、望みは、一つも叶わず馬鹿の目に逢うばかりかなしきの至り也。

2月14日(日)

○キフ二枚。好天。○先生京都へ出発。谷了然来訪。本日、白川七人を罰す。○上田、麦生へ金を渡す。○北条来訪。○晩北条に行く。

2月15日(月)

○キフ一枚。○麦富へ書面出す。○齊竜へはがき出す。

2月16日(火)

○郵便局へ行く。四谷火事あとを見に行く。○キフ七枚。大勉強。○大久保左南に行く。十時まで談す。国目を出。○水野より書面着く。

2月17日(水)

○宮島富三よりはがき着く。○火鉢を本日廃す難。○キフ六枚勉強。○井上円了氏へ幽界物語を郵送する。○はがきを井上氏へ出す。○齊藤より書面着く。○文章したたむ。○風晴。

2月18日(木)

○キフ四枚。○中嶋氏来訪。○筑地へ書面出す。○風晴。

2月19日(金)

○キフ六枚。○「ラリタ」写五項。○大経英写五項。○大に雪降る。午後三時頃より始める。

○濟生よりはがき着く。

2月20日(土)

○キフ五枚。朝、地震五分余間ゆれる。○大英二項写す。○晚北条の処に行語話。筑地より通知あり。

○はても妙驚いたり、なをもいづけなきへんじのはやさ読み了りて、へんな心。○政一よりはがき着く。

2月21日(日) 晴天。

○キフ5枚。長々の「枳橘易士集」も、ようよう本日を以て千秋楽を告ぐ。○午後、榎本館に高楠訪問、反省会のこと蔵行のことなどを談す。○反省会会長談快。

2月22日(月)

○旭^外一人来る。○桜井来る。○暗黒本願寺論を読む且つ批評す。

2月23日(火)

○風邪甚し。○兄へ書面出す。○井上円了氏よりはがき着く。○大経写本。○上田来る。○波佐地誌編する。

2月24日(水)

○先生帰宅京都より。○水野より本山革新報知を送る。○井円来訪。○散歩する。帰詠舎へ行くも留守。

○外道哲学を読む。○大経写本。

2月25日(木)

○大経快写す。○区役所へ行く。

2月26日(金)

○水野より書面着く。○写本大経。○印捺する。其他屑々光陰矢のごとし。麦生来る語る種々。○住偉会よりはがき着く。水野よりはがき着く。

2月27日(土)

○大経写本少々。○午前、白山来先生風邪只語話のみ。半鐘門まで白山を送る。種々語話す。○水野へはがき出す。○政一よりはがき着く。○越中の上田某来り、改革の中傷説一時間半説く。○古田来る。

○夜、先生に字書及梵学に付忠告然たる恐見を申し上げる。

2月28日(日)

○昨夜清谷よりはがき着く。○今朝日本橋よりはがき着く。○北条を今朝訪う。○東山本山三幅対を買う。○午後、清谷来語、神田へ共に散歩する。

3月1日(月)

○大経講第八回一雙十二迄。○北条来談。○大学生四人来訪。おそく迄種々話しあり。○舜台氏の手紙。

3月2日(火)

○春谷より書面着く。○水野より書面着く。○反省社より書面着く。英文円勞経しらべる。

○入湯行。○大経講第九回十三より十九双迄。○晚、廣田来語。先生種々快語あり。

3月3日(水)

○富郎より書面着く。○ラリタ講。○三人客あり。○麦生政一来る。○勝珍氏手紙。○改革報を送る。

○西依よりはがき着く。河上貞信、天竺より帰朝を報す。

3月4日(木)

○大経第十回。大閉口。○明清寺より書面着く。○日とめ改革の言文に接せざることなし。○うつつ然たり。○白山より往復はがき着く。

3月5日(金)

○大経第十一回。○明清寺へ書面を出す。○狂風地震あり。○石川舜台氏へ宛の敵敷南條の書面を読み聞かざる。氏の強硬主義感じ入る。元教学部長辞任の強硬主義一対す。

3月6日(土)

○先生式年本社行。○湯行。○先生の「諸行無常」原稿を写す。十二枚。○北条に行く。○斉藤繁人より書面着く。○反省会より書面着く。○反省雑誌着く。

3月7日(日)

○反省会へはがきを出す。○水野へはがき。○芝弥生館へ印度飢饉救助会に臨む芝浦散歩銀座三橋亭へ行く。北条、古田、予の三人。雨。

3月8日(月)

○大経十二回。○赤松来る。雨。反省会へ書面出す。

3月9日(火)

○大経十三回八十八双済む。○剃髪及び湯へ行く。降雨。○北条へ行く。

3月10日(水)

○兄より書面着く。○迫奥の開拓を本日、着手すると云云。3月4日発。○水野よりはがき着く。○斉藤、中河内、二本はがき出す。○水野へ□□□書面出す。○ラリタあり崇議会々報を贈る。○九段□□□□行く。

3月11日(木)

○蔵書調べる。○月見来る。○安藤、秦来る。

3月12日(金)

○伊藤、吉本、天地、外二衆海員、井上円了先生、月見氏来る。改革□午前十時より午後二時迄。○伊吹、安藤来る。○福井龍朝来る。○中田門より書留着く。○政一へはがき出す。○北条へはがき出す。○大経我建偈少々、第十四回。

3月13日(土)

○ラリタ。○局へ行く。政一來る。○湯行。○上田来る荷物着く。

3月14日(日)

○午前梵文典日曜講義あり。大学生七、八人。○午後、本郷傳中へ行く。○晩降雨。

3月15日(月)

○大経講第十五回三誓終わる。○国の兄へ書面出す。○水野へはがき出す。○白山よりはがき着く。○局行、中島行、印捺し紙つぎ等□るも出来ぬ

3月16日(火)

○大経第十六回。○柳光亭へ石口、中村、桜、改革で行く。

3月17日(水)

○彼岸の入り。○晩、北条行菊池来る。宇都宮紹介状貰う。○大経第十七回。○中河内へ書面出す。○麦政一よりはがき着く。

3月18日(木)

○大経第十八回。○東洋哲学会よりはがき。○済生よりはがき。○経緯会よりはがき。

3月19日(金)

○大経第十九回。雨小降。

3月20日(土)

○午前大学生講義。○柏原来り。谷蔵行き助力の話をなし呉れる。○ラリタ写本。○降雪。

3月21日(日)

○白山へはがき出す。○白山よりはがき着く。○白山より電報着く。○白山晩来訪。本日福□面談し□を話す。

3月22日(月)

○東洋哲学会へはがき出す。○石川舞台来上。○大久保来る。明日京都へ行く。

3月23日(火)

○御経書出一項半。○清国よりはがき着く。本月十七日にて、凡そ、開拓済との通知也。○大経写。大に感ぜり精神入れかえたり。

3月24日(水)

○石川舜台氏来訪。○大□来る。○深井隆三郎より書面。○渡辺より書面着く。

3月25日(木)

○先生に経緯会のこと社会常人の事等から、本山施政等を申し述べる。○赤坂宇都宮の処、政一より又未本代議士等へ行く。閉院式あり。○渡辺、荻原へはがき出す。○深井隆三郎へ書面出す。

○白山へはがき出す。

3月26日(金)

○水野より書面着く。○先生出立のはずが病にて延引となる。○石川より、京都市行き同道、明日へ延引を申して来る。

3月27日(土)

雨。石川の宿林屋に行く。先生病の為延引。○晩、北条来語せり。

3月28日(日)

○強雨。○経困会をはがき着く。本日、弥生館に改革に付会見も不出席。

3月29日(月)

○好天。○榎本農商退任。

3月30日(火)

○雨。○政一來語。○例に由って例の如し。○先生病要中。○水野より改革通と申す物を郵送する。

○水野へ□□書面出す。

3月31日(水)

○本月書出しは名集全インデックス九頁のみなり。○外に大経和訳写五十一枚。○先生本朝出立。○詠婦舎へ行。湯行。○晩、北条訪問改革語等を聞く。強風ふく。

4月1日(木)

○子安君へ書面出す。○前晴・后曇。○午後四時半詠婦舎へ入学。言語集始めから習い始める。顔白し。六時半帰る。○晩、近方散歩清及近諸多国、及湯さまし本を購入する。○「世界時言」五号着く。

4月2日(金)

○強雨。○前写本。○所感、予、立志三原は友人にして金蘭藤等是也。○詠行(語話す)。○能海登より書面着く。○反省誌十二年三号着く。

4月3日(土)

○朝、強雨を犯して本郷傳中に行く。竜作、横浜へ行き不在。金講取り羽錢を頼む、政一も行き共に帰る。上田により松本ビーフ行く。境地を訪ね、本山事件を談す。○四か組納をして帰る。この時夜九時。

4月4日(日)

○中河内より書留着。○水野よりはがき着く。昨日、出発帰国。○午後、安本来訪大いに語す。

4月5日(月)

○第一銀行へ行く。○近方見物、政一に寄り十二時帰る。○兄より書面着く。○北条来る。

4月6日(火)

○降雨。○昨夜二七不動の背火事見行く。○先生より書面着く。○反省より書面着く。○反省へ原稿送る。○はがき反省へ出す。○はがき高楠へ出す。

4月7日(水)

○降雨。

4月8日(木)

○午前傳中行き羽織とりに行く。○午後降誕会、島地。○大内、村上、夜七時散会。晴天。○支那語行き休む。

4月9日(金)

○強雨。○写本。○詠帰(注5)行。

4月10日(土)

○大小二經梵和詔写本終る。○晴。○詠帰行、(蔵見行、留守番也)。○大学のボートレースあり。○明日専門学校。○芥藤へはがき出す。○荻原へはがき。

4月11日(日) 天気。

○午後新宿辺田畑の間を散歩する。

4月12日(月) 晴

○荻原雲来来館。○書出し。○経困よりはがき着く。

4月13日(火) 晴

○書出し。○風邪。○蔵漸く開かんとす。

4月14日(水) 曇

○高楠桜井来訪。○東洋哲学会よりはがき着く。

4月15日(木)

○皆乗より書面着く。○雨降る。○書出し。○九州僧来る。

4月16日(金)

○皆乗へ書面出す。○曇六十度。北条待居り。○菊池を三番町に訪九段夜桜。

4月17日(土)

○名経書出し終る。○曇天六十七度。

4月18日(日)

○赤坂行くも留守。○夜桜赤坂辺。

4月19日(月)

○雨天。○東洋哲学会行。○上野花見。○水野から書面着く。

4月20日(火)

○百日祭に付学校休。○夕方宇都宮太郎大尉を訪問、有益の語話を聞く。支那より入るの便等大賛成のとき福島大佐へ紹介せらる。

4月21日(水)

○□土開戦□は、この十七日に□□布告。夜先生帰宅。

4月22日(木)

○宗教学の必要原稿了。○□□の□□第四集を読む□□。

4月23日(金)

○庭除草。○水野へ書面出す。○舎にて語話軍事□蔵件。○大□水来先生へ二条の内一を申付けんとす。

○根本的改革の事を先生に語す。法主の懺悔□□。

4月24日(土)

○ラリタあり白山来。晴天。○ラリ写。○□行。不快。○今日屋中に波乱あり皆幾分の不快の念ありあれくもり人心一同に感じるもの感所謂天地自然人間は小宇宙。○菊池を訪問宴会帰る。

4月25日(日)

○内立宅午後上田、栗栖来話、先に大久保辺散歩する。

4月26日(月)

○古田来て鯉上り建て殆ど仕事ならず。○大経梵始む十三編より。○東京中学校寮長電報。訪問者□。

4月27日(火)

○午前内院及びドウルヂャーバダーナの調べに費やす、午前、郵便局四谷に行く途中で馬車駄馬に蹴倒され循去らる。○山形某独立論本。

4月28日(水)

○午前降雨。○白山来ラリタあり。○夕牛込蓬莱町三番地に福島正則大佐訪問波斯、ビルマ等の旅行語り支那両地のことなどを承る。この時朝鮮人張博氏あり、一時間ばかり話し帰る。○一寸菊池に寄る。○神戸桑門君書面着く。

4月29日(木)

○伊藤大□来訪。○古へ書面出す。○西村とか云う女来り大気えんを吐く。○斉藤繁人より書留着く。

4月30日(金)

○塩沢来る。○上田来訪金渡す。

5月1日(土)

○午前三井銀行に行く。○快晴、著物一枚を脱く。○夜散歩して帰る。○八時過ぎ近所茶屋の土蔵裏より出火大騒動。○国へ讀賣出す。

5月2日(日)

○八時発、安本を訪い本郷へ行き、哲学書院、反省会、東洋哲学会、傳中夫より谷中花見等、初音町中学等を回って午後五時帰着。○国へ太陽及新聞出す。

5月3日(月)

○先生終日不在。本郷・子住の所へ行く。○降雨強。○風呂へ行く。○宗教写す。○学場宮嶋氏教授及会話。○新聞国へ送る。

5月4日(火)

○午前印捺す。○国へ新聞出す。○午後七時、神田錦輝館に活動写真を見る。大いに感あり。一に曰く、白痴教育、二に曰くエジソンの大文明及平民的、三に文明的示威運動。

5月5日(水)

○国へ手紙及び新聞出す。○上半天白山来過る。ラリタあり。○下半天月見及古田来大に改革派へ不平を述べる。今晚是個。晴天。

5月6日(木)

○九日迄春法事。○浄蓮寺春法座。○靖国神社祭礼。○安本来語話。○留守番。尺八。○支那語臨休祭に付。

5月7日(金)

○不平会勃起す。○夜強雨降る。○大経梵。○妙蓮寺宛新聞出す。非常強雨、夜降雨。

5月8日(土)

○曇うつつ伏せたり。○午前、ラリタ白山来る。○『哲学雑誌』二十三年頃のか、加藤弘之氏が二宮径論、学者か哲学者たるの評判常に有益なり写しとるべし。入湯。

5月9日(日)

○午前、午後、西藏学前には「予と西藏」と題する記事をなす。○午後より、晩へかけ「西藏大蔵経目録概要」を訳出す。外出少しもせず。降雨。

5月10日(月)

○反省会へ「西藏国大蔵目録」原稿送る。○茶の水橋八人殺し知れるとはやれはやれ寺も近辺の蔵屋に縁あるものとは。

5月11日(火)

○大雨。○安藤弘君来る。○秦君来る。○晩去りざり。
5月12日(水)
○白山来ラリタ。茶の水及岩井村の殺人等詳報出て読みて心持ち悪し。
5月13日(木)
5月14日(金)
5月15日(土) 風狂
○午後経団会を反省会にて開き行く。来者十七、八名。月見、伊吹来る。
5月16日(日)
○午前、東洋哲学会に行き、井哲の蔵学の話あり。降雨。○午後、青年会大会行き、会場設立議決せり。
5月17日(月)
○午前、書出せり。心中何となく不平。好天気なり。
5月18日(火)
5月19日(水)
○七十七度。
5月20日(木)
5月21日(金)
○子安氏着く。
5月22日(土)
○白山来る。「ツランクハバ」を訳す。
5月23日(日)
○「ツランクハバ」伝書く。
5月24日(月)
○雨降る。○萩原来る。
5月25日(火)
○黒下太下雨很雷鳴電射、天神さんも大ベケ。
5月26日(水)
○ 蔵かへ。
5月27日(木)
○古田来り、夜九時過ぎまで議論せり。
5月28日(金)
○詠帰舎で宮坂九郎の支那行きの送別大会あり。
5月29日(土)
○ラリタ白山来る。午前下雨。○先生千葉へ行かれる。○菊池を訪問留守。子安氏同道砂場行く。降雨尻をからげて歩く。
5月30日(日)
○終日在宅。
5月31日(月)
○下女□帰る。○七十八度。先生子安川上□行く。○大経「インデックス」書出終る。○大経東方偈終る。
6月1日(火)
○中河内へ書面出す。○庵主来訪。○上田へ金廿弍円渡す。晴天七十八度。○反省会より書面着く。
○反省会へ返信出す。○小経「インデックス」書出始なし。

6月2日(水)

○白山来る。○月謝収む。○運動中左足小指損く。八十度。昨晚蔵立。

6月3日(木)

○下半天下雨。○近頃午後、毎日午睡す。○穿上単衣裳。○麦生へ金拾四円渡す。

6月4日(金)

○毎日朝大経講義。○大いに午睡する。七十五、六度。

6月5日(土)

○七十四度。○下雨。○法話「ヂヤイナ教」(注6)を出す。尾□子なりと可見。

6月6日(日)

午後、安本、玉泉、同道し上田の所に至り、松本居にてBにて分かれ、古田を訪ね、非宗教学など七時迄話し、大雨を犯しめ三番町菊池に寄り、経団会例会に付き話し、九時半帰宅。

6月7日(月)

非常に寒く六十二度となる。降雨。

6月8日(火)

本月経団会例会当番、幹事、予と金とに付き本朝、本郷湯島に行く。○夕方より雨降る。○女兒急病。

6月9日(水)

○晴れる。○六十七、八度単衣を合わせ着するに至る。○山王山祭礼。

6月10日(木)

○神戸登へ為替式円添へ書面差出す。○曇天七十度。

6月11日(金)

○国元に於いて迫奥田新開田大潰の牛供養により、数十宛の牛、鼓、五月女にてにぎやか田植え見物をかくせりとの事。

6月12日(土)

午後、湯島麟禅院へ行く。経団会、田上追弔会、北条送別行、予幹事五時散会。三崎町まで大砲など相模へ行く。入湯、夜降雨。

6月13日(日)

○在宅。夕方古田来共に砂場行十時過帰る。曇天。○富郎へ書面出す。

○「西藏所伝釈尊入滅考異説」書く。

6月14日(月)

○山王山今明日祭礼。好天八十度。○政一来る。○安藤書面出す。○「説教改善心理学上より論ず」論文書く。

6月15日(火)

○北条来訪せり。

6月16日(水)

○午前大経(疑儀胎官五智の章終わる)。○降雨。先生名古屋、京都に向けて出立。

6月17日(木)

朝北条に立寄り上野図書館行。午前雨、午後晴れる。○東洋哲学会より葉書着く。

6月18日(金) 晴天秋晴れ。

○午前七時発、北条、太洋把刺、西爾国行き送別の為、新橋へ行き、八時十五分汽車に同乗し、横浜着直ぐ郵船会社陸上にて一休同社の小汽船にて、インプレスヲフチャイナ号に至り百廿八号室乗り込み、船内を一見して、十一時半帰り中食して、山手海岸通り散歩とき、同船、正午十二時発船行を見認めたり。大分花屋敷及公園にて、外人の運動等を見て三時三十五にて四時半、新橋帰着。日中の田植あり。

6月19日(土)

一昨夜、神戸より葉書着く。

6月20日(日)

6月21日(月)

○午前、神戸・岡本真一へ行く。北条の金渡す。○午後、子安氏、同道三田白山にかり三人同道、芝浜館至り、夜八時過迄快語。○□遊せり。十時帰宅。

6月22日(火)

午前西依来訪。

6月23日(水)

○午前、西依来訪同道三番町丁西社に行く。三時過帰る。○東洋学についての一文雑録を書く。夜九時より降雨。夜、高楠来、スッタを貸す。川口慧海西藏(注7)に向う。

6月24日(木)

○西藏文典の訳を始める。○午後、渡辺海旭来訪、西藏話をなす。○夜宝亭に子安君と行く。降雨強し。

6月25日(金)

西藏訳出する。○雨降り寒し。

6月26日(土)

○西藏訳出する。○曇り。

6月27日(日)

地震、安本、古田、高楠、奏、上田来る。真中高楠の欧ロッパ風イヤニ気取る辺一寸オモシロキ処なり。先生帰宅。

6月28日(月)

○朝白蓮社より西依菊池大円の所に至る。○破塵問対及□笑評を見る。

6月29日(火)

午前、石塚氏来訪、大いに化学的長寿養生御話しあり。非常に感動せり為に、今に日中の御菜より断肉食勿論、朝も毎朝精進なれば、本日より精神也。夕食に□及「キュウリの酢物」も断然禁ず。○奏来る。○白山父病氣見舞いに付総代として子安氏行かる。

6月30日(水)

○朝、奥村女丈夫来る。円心朝鮮行しるし。○白山よりはがき着く。○本日大経読むはずの所先生病気に付終わらず。

7月1日(木)

降雨。

7月2日(金)

午前、大経梵読終わる。午後、市ヶ谷八幡辺を散歩す。白山君より手紙来り、実父宗英氏の死去を聞かせり。昨夜六時死亡。降雨。

7月3日(土)

午前、白山氏見舞い行く。午後、西依に行く。

7月4日(日)

広内より書面着く。京へ電打ち問い合わせ。午後、経団会白蓮社に開く。会するもの十一人。夕方より古田、子安、予、三人宝亭九段寄席小清布引継、正直□行十時帰宅大いに懺悔す。

7月5日(月)

朝、広内宛電報発し先生松島へ出発。

7月6日(火)

水谷氏□□□までウイツリ島を発す、八月一日、總州勝浦に着す。京橋新湊町五丁目金十社、水谷新六氏外四人。

7月7日(水)

冷七十五度。○降雨、西依に行く。同道に子安三人青柳亭に行伯知の話を聞く。

7月8日(木)

冷七十五度。先生松島より帰宅。

7月9日(金)

曇天。

7月10日(土)

○先生出立。○子安帰国。○西藏国問題を書き始める。

7月11日(日)

○九十一度。朝、出発上田、傳中、□□、反省会にて中食、沢井来、安藤、西依八時半発、九時半帰る。顔白し、洋の福も、話も、ゆかいの事多く聞く。晴天。兄よりはがき他着。迫奥未開田の田植供養報ぜり。

7月12日(月)

松田傳中よりはがき。麦富よりはがき。

7月13日(火)

降雨。○「西藏国問題」稿了。

7月14日(水)

○兄よりはがき。○順覚寺住職死去の報、直ちに順覚寺へはがき出す。○九十度已上晴天。

7月15日(木)

向郷。

7月16日(金)

7月17日(土)

菊池君支那・朝鮮行きのため新橋迄見送る。政一を訪ねる。晴天。

7月18日(日)

富郎より書面着く。午後、安本、玉泉来訪。六時迄語話。

7月19日(月)

麦岩より書留着く。麦富へ為替入れ手紙出す。安藤、午後來訪種々雑談せり。曇後晴。土用入り午後八時。

7月20日(火) 雨。

7月21日(水) 雨。

7月22日(木) 雨。

7月23日(金)

先生の書の虫干しを始める。本日より好天。晩、本郷森川町、西依へ行く。

7月24日(土)

虫干し二。

晩、西依行く。会者五人。

7月25日(日)

虫干し三。

古田来り白川天神縁日行く。

7月26日(月)

虫干し四。

国へ小包にて衣服を出す。兄へ書面出す。「亜細亜言語集」第一卷四月一日始め今日漸く終わる。

7月27日(火)

虫干し五。西依よりはがき。晩、丁茜社行柏原、西依、大円あり。27日不動を巡り帰る。

「亜細亜言語集」第三卷問答辺を始める。

7月28日(水)

虫干し六。太平洋社へ「西藏国問題」原稿送る。山口順太郎へはがき出す。「亜細亜言」第二卷は後に回す。

7月29日(木)

虫干し七。○仏教学会へ原稿送る。○廿三日より、昨日迄満足の晴天。本日夕方少し雨降る。

7月30日(金)

虫干し八甲。

斉藤来る、上田来る。降雨。詠帰舎、今日限りにて夏休業とせり。

7月31日(土)

虫干し八乙、残を仕舞しのみ。○蔵学す。○岡本より書面着く。晩、神田上田、本郷安藤に行く。金渡して帰る。曇、少し雨。

8月1日(日)

○朝より安藤来り快語。午後三時帰る。○神田へ経団に付き手紙出す。○虫干し九。

8月2日(月)

○政一来訪。○梅原より書留着く。○虫干し十。支那語学夏期講習を始める。

8月3日(火)

暑天。午後三時より語学会。虫干し十一。

8月4日(水)

前十一時先生外二人帰宅来宅。午後白蓬社まで経団会大いに舎是に付き議論す。椀退会を申出ず。九十余度大熱。哲学館報告来る。九十三度。

8月5日(木)

経団会会是及び会員誓約書、並びに其説明書を作る。

8月6日(金)

天祐丸の記事あり。佐官来る。降雨少々あり。虫干し十二。○北条ロンドンを出発す。

8月7日(土)

○佐官。

8月8日(日)

伝中及び西依へ行く。

8月9日(月)

8月10日(火)

○両国花火九段迄行、橋の手すり落ちて死傷者あり。

8月11日(水)

虫干し十三甲。梅田定君来る。本郷に行梅田同道。反省会に寄り帰る。九十三度。

8月12日(木)

□業史を熱心に調べる。○虫干し十三乙。佐官終わる。休□□休む。

8月13日(金)

大虫干し十四。支那語休。九十三度。

8月14日(土)

大虫干し十五。九十三度。夕方より強雨雷鳴。

8月15日(日)

○梅田、西依と共に、大円行夫より白山に立寄り、夫より山口に寄り泉岳寺に行き銀座に往きて、大に個論を戦わし目鐘にて分れ、太平洋に寄り、九時帰る。

8月16日(月)

○白蓬社に行、経団会場を頼む。○父君二十三回の祥月命日と成る。

8月17日(火)

虫干し十六歳量。

8月18日(水)

虫干し十七。虫大尾。

8月19日(木)

午前、経団会々是委員会、渡辺、西依、境地、梅田、予五人。午後、白蓬社にて会議臨時会、会者八人。会員を定む。大いに議論あり。

8月20日(金)

○午前、芝口辺齊藤の為行不在帰る。「午後『東洋の低気圧』文及『ツランクババの異伝』二文を綴る東哲(注8)に送る」。

8月21日(土)

朝より本郷森川町梅田、西依訪問。小石川植物園へ行く。○父より書面着く。

8月21日(日)

終日在宅。晴天。

8月23日(月)

梅田午後来訪、桜田門に御還御を奉迎。夫より永代橋散歩、高楠を訪問、普通の旧暦を語聞しめ九時半帰る。波佐地図製す経緯編。佐田帰る。

8月24日(火)

○書出少々始める。○屑々。晴天。○水野よりはがき着く。○水野へ書面返信。○富郎へはがき出す。

8月25日(水)

西依来語。大いに宗教学、経団会、是に付き論じ共に砂場を経て丁酉社に行く。「十鐵批判」を書き仏教へ送る。

8月26日(木)

書出し少々。

8月27日(金)

午前、西藏図を写す。午後本郷西依、梅田訪問議論、傳中へ行き齊藤の談話を聞き、境地に寄り安藤に共に行快語密談。十時過ぎ帰る。高楠より手紙来り少しく不平の志起る。

8月28日(土)

齊藤繁人より葉書着式十円受取る。○西藏の蔵経アナリレスを調べる。夜、強雨降雷鳴。

8月29日(日)

書出し方改正す。曇和。

8月30日(月)

書出し。晴れ。○ロンドンより北条書面を送る。午後、白山来訪快語議論せり。午後四時より駒込真浄寺に備輯「仏教」会あり原セイミン、尺セイタン外知人六、七人、高嶋を訪い田中に訪い夫より西依へ行き、桜井、安藤、渡辺、桜田等会の退会を本日処分を決議し、十時半帰宅する。

8月31日(火)

二百十日。朝強雨。終日曇天。書出し。水野、帰国の旨神戸より聞せり。去る三十日より経河屋来る。

9月1日(水)

同大学北生今基督教調査中の中野君梅田の紹介にて来語、午前大いに談す。○詠帰舎行。半晴半曇。

○書出し。

9月2日(木)

半晴半曇。○書出し。○石村貞一來訪。□□そく斉藤より非常の□□れの手紙を送る。

9月3日(金)

午後、傳中へ行き斉藤と熟談。遂に彼帰国に決し金を用立。午後、帰途西依へ行き梅田と三人、大いに宗教哲学に付き研究其他快語。八時帰宅。晴風。

9月4日(土)

○強風外頭土大。○書出し。晴天。西依等来る。梅田本朝帰京。斉藤神奈川へ出発。

9月5日(日)

降雨。午後、経団会者五名□□甚だ不振。この夜、先生一行帰宅。斉藤神戸へ着く。

9月6日(月)

午前雨を犯して竹橋安本面会に行く。斉藤、広島へ着く。

9月7日(火)

午前迄降雨。午後より晴れ来る。

9月8日(水)

終日降雨強し。往学屋終了。帰国に□話あり。先生九州行新門の話等あり。□□帰宅。

9月9日(木)

昨夜已来、強雨雷鳴急。今朝より暑風となり、木を折り屋根を飛ばし、戸を放ち、雨も強雨被害少々ならず。終日、其片付けに日を費やす。

9月10日(金)

夜先生、予、三好、三人、九段より小川町辺へ散歩。九段下素行女義太夫行菅公の段。

9月11日(土)

この夜三好帰国。

9月12日(日)

来客甚だ多し。石村貞一、井上円了等。龍出度発足(注9)。

9月13日(月)

□□一週年忌。傳中に行き安藤、桜井、西依に寄る。夜十時帰宅。晴天少々雨。龍広着。

9月14日(火)

午前、日本橋□町第百銀行へ行く。印鑑を失念して、午前二回往復す。降雨。龍へ手紙書。

9月15日(水)

雨。中野来語。

9月16日(木)

雨。学□行く。中島へ行く。上田来る。風呂へ行く。

9月17日(金)

斉藤より書面着く。曇晴。

9月18日(土)

午後白山君を訪い夜九時帰宅。

9月19日(日)

夕石川舞台を訪問するも留守。築地を巡り帰る。

9月20日(月)

降雨。

9月21日(火)

強雨さむし。午後、安本来訪せり。

9月22日(水)

午前、麴局に行き、今朝着の龍作よりの為替受取又、本郷局に行く。同為替受取り買物して西依に行き途中、境地に逢い西依と三人、上野高楠に寄り六時半帰宅。又上田にも寄る。

9月23日(木)

十一時発浅草本山にて石川舜台氏に面会蔵行の約、梵書出版の約、支那開教約、及社界問題等の話をなす。高楠を訪い梵学会設立を話し互いに考え口ことにせり。古田を訪い茶道等会語。夜九時に帰る。

9月24日(金)

大強雨。引籠り。夕方買物に神田へ行き、富士平にて、小政を聞く十種番、十時帰る。

9月25日(土)

午前五時発。六時新橋発。汽車不通に付横浜にて朝顔丸一五二五トン五十七号に乗る。晴天。正午発、伊豆崎にて夜に入る。

9月26日(日)

熊野浦にて夜明紀州沖強雨をまともにうけ、平穩にて午後七時、神戸着。強雨船中に寝る。

9月27日(月)

朝九時上陸登来迎強雨。麦富来訪共に停車場に送り帰る。

9月28日(火)

午前八時半発、須磨に古田を訪問。途中車死人あり夫に快語。晴天。

9月29日(水)

大々強雨、午後加之暴雨汽車不通。午後五時須磨発帰神。

9月30日(木)

午前水産博覧会見物十二時帰る。晴天。

10月1日(金)

午前和田岬に水族館を見に行く。一見るべき価値あり。富郎よりはがき着く。明石大風被害多し。

国元へはがき出す。西依へはがき出す。

10月2日(土)

好天。支那語復習。水野上京を伝えて、大いに困難。午後渡(布引)雌雄を散歩す。光雲寺へはがきを出す。

10月3日(日)

○佐野の鉢木(時頼の潜行)。○安宅勸進帳(義経運末)。○大高源吾(伊勢分れ、徘徊)。○老木の返咲(加藤、片桐、福島)。○文覚上人(袈裟、那智瀧)。以上数号を読み終わる。海岸通りを散歩す。好天。

10月4日(月)

午前十時千地着神。午後七時出立。十時半港出航隅田川丸四百六十噸、百八十呎長。晴天。

10月5日(火)

島度津朝飯。来島海峡中飯。伊予周防灘間晩飯。

10月6日(水)

午前一時門司着。二時馬関着。十時半出航。六連島中飯。大強風二百人中百八十迄よい。七時半萩着。十時出航。

10月7日(木)

朝五時浜田着。大湯屋へ行き、春谷がおり大快語、散歩して宿へ。

10月8日(金)

有福行。入湯。晩宿にて説教。宿す。

10月9日(土)

午後一時発足。晩七時、波佐帰着す。未帰前処着落手。

10月10日(日)

築後、三池、南條先生へ書面。東京南條へ書面。富郎、水野、神戸、西依へはがき出す。

10月11日(月)

白山、上田、子安、梅田、古河へはがきを出す。

10月12日(火)

風雨。平岩へ葬式に行く。

10月13日(水)

10月14日(木)

□□。

10月15日(金)

御命日。晩、小うろし。

10月16日(土)

晩より報恩講。当山。好天気。

10月17日(日)

報恩講。

10月18日(月)

報恩講。使僧。久保了温氏両御消具奉供。蓮如四百回忌待受一通。

10月19日(火)

は使僧。一通、久保了温教学根起しの消息。南條より書面着く。

10月20日(水)

浜田へ書面出す 春谷に晩泊に行く。

10月21日(木)

光東寺へ参る。

10月22日(金)

馬の原大原葬式。晩、竹の原。曇。

10月23日(土)

上来原、七条、久佐、和田。宿穴本(報恩講巡回のはがき出す)。ひるから晩、屋敷。安藤弘に書面出す。

10月24日(日)

乙九日(注10)、中河内行く。大いに語しめ一宿。

10月25日(月)

中河内を出て、安養寺に寄り翠水君と論談。夫より上田、妙蓮室に寄り専光寺報恩講に参る。この夜苅寺(注11)前火事。

10月26日(火)

専光寺報恩講。半妙へ報恩講に行く。

10月27日(水)

専老母法事。

10月28日(木)

御命日。

10月29日(金)

最勝寺参。

10月30日(土)

最勝寺報恩講。晩、齊藤に至り宿す。

10月31日(日)

齊竜と共に中河内に寄る。日中休石及び法。浜田より書面来る。晩、藤岡へ報恩講。

11月1日(月)

在宅。春谷氏方につかる。后山清の法務逢い休務せり。

11月2日(火)

在宅。休務せり。

11月3日(水)

天長節(注12)。大宮(注13)にて送迎会あり。夜、春谷氏に行く。

11月4日(木)

永代経。上来原の中田屋。

11月5日(金)

上片山、木原、権社。

11月6日(土)

朝事法事、権社。日中、竹の本。新打道見物。正午出発、四時浜田着。休息、入浴。六時夕飯。六時半散歩。八時共に帰り九時迄談話。十時半帰去(注14)。

11月7日(日)

九時、松原外の浦行く。午前待受不来。午後一時半戸閉あり。午後、二時半浜田出発。五時七条着幸三郎。出ヶ谷□□□め不都合千万。

11月8日(月)

一里余り。堂ヶ原。二反田。

11月9日(火)

町原。下廻り。

11月10日(水)

喜田には、今年三千石の損。中大谷。下潰。

11月11日(木)

二里、和田□田屋。福田権五郎。同作太。

11月12日(金)

一里、本郷の飯田安次。三里、坂本の平田屋。一里半、晩、宇栗の一ツ町。

11月13日(土)

前土曜の感。

堂参、中間。

11月14日(日)

保養原朝。前の谷。日中、下向宿。

11月15日(月)

帰山。今田屋の葬式行く。昼より栗木田、晩迄。

11月16日(火)

落谷の隠居。晩、尻の切作右エ門。

11月17日(水)

朝より晩迄雨。橋ヶ原三部経及報恩講。

11月18日(木)

高野慶助へ行く。微雨。

11月19日(金)

大谷の原吉。英輔。梅次。晩、虎治。

11月20日(土)

日中より岡原(注15)、山田屋總佛報恩講。

11月21日(日)

朝、山田屋報恩講。帰山。七昼夜。晩、御内佛報恩講。降雨。

11月22日(月)

御正忌。石田屋報恩講、法事。強風あり。

11月23日(火)

山田屋報恩講

御正忌。強雨。

11月24日(水)

沖田屋報恩講。この夕、山頂始めて雪白を見る。

11月25日(木)

下の橋報恩講。

11月26日(金)

寄田屋報恩講、法事。

11月27日(土)

日中、妙蓮寺へ前僧上人廿三回忌に参り帰る。通夜を本年よりやむ。但し三時寝る。

11月28日(日)

降雨参者少し。

11月29日(月)

晩口城報恩講三部経。

11月30日(火)

日中、石ヶ淵。晩、下ヶ原。少々雪降るも不積。

12月1日(水)

朝、下手向原河内。日中、隠居報恩講 晩、川上屋報恩講。

12月2日(木)

日中、筏津。晩、木並屋。今朝始めて南條及び静よりの手紙を見東上を決定す。

12月3日(金)

日中、柏屋。春谷に夜三時迄話し込む。

12月4日(土)

休勤。○静へ書面を出す。

12月5日(日)

晩、小国、室屋敷。

12月6日(月)

日中、柚根平田。日中、奥猿木。晩、枡の木。静出航する(注16)。

12月7日(火)

好天。日中、殿田。中間は移転不勤。晩、向金町。

12月8日(水)

朝事、順太。日中、横や。晩、間所。好天。

12月9日(木)

朝、天五郎。日中、泉屋。午後、間所葬式。晩、古屋。

12月10日(金)

朝、藤井清一。日中、波佐谷。晩、数間。

12月11日(土)

午前、下王里 [大折]。午後、降雪を犯して海辺に出ず。道口屋本もれ宿。(大いに失敗)。八時過ぎ帰宅寝る。

12月12日(日)

失望と安心を以って帰る。大いに雪あり三〜四寸。午前、畑木。晩、表屋。

12月13日(月)

楮畑。新田屋。晩、上手。

12月14日(火)

下長沢。帰宅午後四時。大阪よりの書面見る。

12月15日(水)

日中 麦富、松原、本山へはがき。午後、川原小寄り。晩、竹屋。

12月16日(木)

風邪。晩、橋本屋。

12月17日(金)

風邪。晩春谷氏来り浄口寺ありビーフあり大に会食し、唄う三味ありゆかい也。

12月18日(土)

朝大阪及び南氏へ書面出す。神戸、藤堂、美濃子安、古川へはがき出す。午後、三時出発。才河内に止宿す。

12月19日(日)

松原斎藤に立寄り。晩、加計香川宿。瀧太人足。

12月20日(月)

七時半川舟発。降雪。午後四時半広着。かじや町、金野ツタ方宿。但し、別院に行き一時迄話し泊まる。

12月21日(火)

十時半、広島横川発、汽車中田舎くさくしめ行く。午後七時過ぎに着くべき物、遅れて九時半神戸着。十二時迄話し寝る。

12月22日(水)

午前は買物に回り、午後四時三ノ宮発五時梅田へ着。直ちに、江戸掘南通四丁目二十番本田治七方へ行き晩縁日へ散歩し帰って寝る。静に面す夜来床。

12月23日(木)

午前九時過、梅田発十一時京都着。下珠数池田に止宿。東山を共に散歩する。水野に面す。梅原を訪問する。

12月24日(金)

午前、石川氏を訪うも留守。午後、梅田菅を訪問。二条辺迄行く。京極にて牡蠣飯、東山行く。正木を訪う共に宿に帰り大に話し。又正木来る。

12月25日(土)

午前七時五十八分発、関が原大雪。名古屋で中食。午後五時、静岡着。大東館に投宿。十二時迄語す。ネズミ菓子を引くおもいする。

12月26日(日)

午前八時十五分発、午後三時十九分処、四時新橋着。共に車を雇いて(注17)南北に分かる。南氏方報恩講。白山、古田、中島に逢う。

12月27日(月)

午前十時半発し牛込小石川を経て、松田を訪ねる。境地を訪い大いに談す。安藤、桜井、西依を訪問して帰る留守及びし夜中島を訪う。才河内、石田、岡本、松原、神戸へはがき兄と古和へ書面したため出す。

12月28日(火)

午前・午後にかけて春谷氏へ六枚の長文手紙を書く。内四枚は秘信也。今回東上の道中記たり。午後三時投函する。

12月29日(水)

内に居て屑々寒気烈しい。晩、九段及び東明館に行き上田を訪う。佐竹へはがき出す。

12月30日(木)

書出し。梶君へ、はがき出す。近角君来談。

12月31日(金)

安本玉泉を訪う。御前の御掃除荘厳をなして歳末の御勤をなす。

【日記裏書き】

屋敷、新宅、休石、藤岡、半場、大火口、山田屋、柏、下の橋、栗木田、高城、山田屋、川上屋、橋ヶ原、石ヶ淵、隠居、下ヶ原、屋尻の切、沖田、隠居、筏津、木並屋、寄田屋、石田屋、東廿四、廿二小国。

(注1) 能海寛著『世界に於ける仏教徒』第17章本山政論第一、第18章本山政論第二を参照されたい。

(注2) 麴区山元町にあった寄席のこと。

(注3) 梵和辞典の原本。

(注4) 登初とは、弟の登と妹の初子のこと。

(注5) 詠帰舎のことで、宮嶋大八氏が主宰する中国語学校である。

(注6) インドの仙術信仰の呪術、仙術等を仏教の中に取り入れ、7世紀頃に体系化された宗教のこと。

(注7) 河口慧海のことであるが、苗字を川口と書き違えている。

(注8) 東洋哲学会のこと。

(注9) 広島龍作のこと。

(注10) この日は、旧暦の9月29日(乙卯)である。9月の9の付く日にち、九日のことをくんちと呼んでいる。三回ある中で最後の29日を「おとくんち」と呼び、祭りを行っていた。

(注11) 広島県北広島町刈屋形の専光寺をいう。

(注12) 四大説の一つ。旧制、明治節。現在は、文化の日と変遷している。

(注13) 浜田市金城町波佐の常磐山八幡宮をいう。

(注14) 婚約者となる佐々木静子のこと。

(注15) 現在の広島県北広島町雄鹿原をいう。

(注16) 能海寛は、南條文雄宅へ。佐々木静子は、井伊宅へそれぞれ寄留する。

【解説】

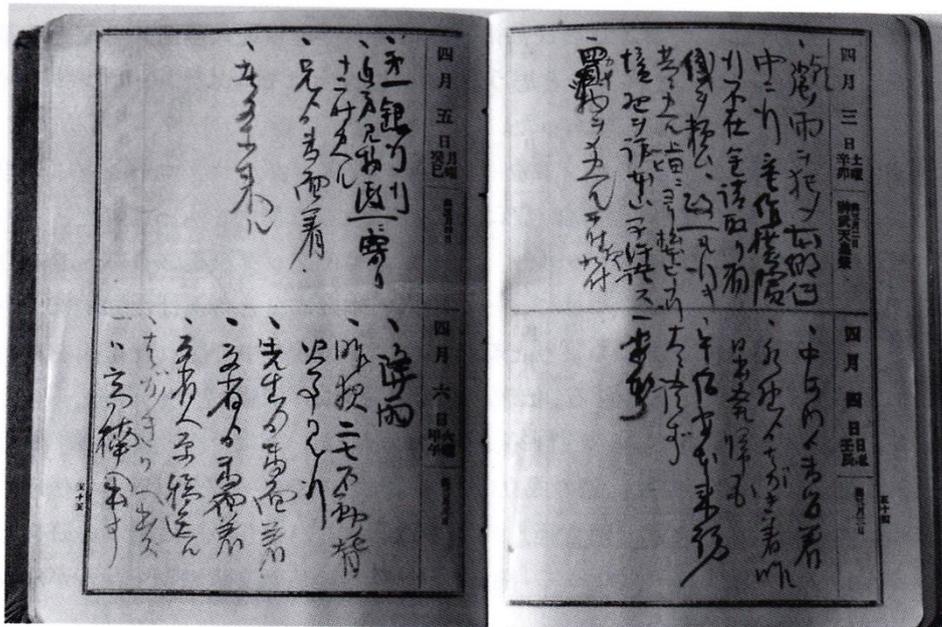
この『使用日記』は、明治29年11月29日に哲学書院から発行された手帳式の日記帳で、タテ12.5cm、ヨコ9cmのサイズである。日記の原文は、『能海寛著作集』第二巻に収録されているので、その方をご覧いただきたい。今回は、口語体の活字版にして読みやすくしておりますが、何せ、難解な筆使いの箇所は誤った置き換えをしているところが、多々あると存じます。研究会員の皆様方の研究の一助になれば幸いです。また、判読を読み誤っている箇所や「□」印の箇所で判読が判明した場合は、事務局へ是非、ご一報願います。なお、本人が書き間違えたものと判断される箇所は「[]」書きで表記しております。

明治30年という年は、能海寛にとって、人生を左右させるほどの激動の一年であったと言っても過言ではない。立て続けに書いたチベット関係の論文の多さ、友人・恩師との交流関係の多さ、将来妻となる佐々木静子との見合いから婚約までの流れ。チベット探検行前の事前準備にも余念がなかった。

この時点で、日本におけるチベット関係の研究者としては、最も、最前線の研究者で、しかも、チベットの最良の理解者であったと考えられるのである。この年から、「世界に於ける仏教徒」第二編の編纂にも取り掛かっている時期でもあった。

明治23年に能海寛が主宰する英文会の「Wisdm&Mercy」という機関誌を三省堂へ英文を印刷に持ちこんだ時に印刷を断られたことを思うとき、7年後に、三省堂の主人が二回も能海を訪ねて来て、英和辞典を贈呈したということは、南條博士宅に寄留している門下生であったという関係のみでは無いと考えられる。やはり、『世界に於ける仏教徒』（明治26年発行）を三省堂の主人が目にし、一読同感したことにより理解が深まったのであろう。この日記からは、断片的ではあるが、多様な人間ドラマが見えてくるのである。

(隅田)



「使用日記」の一部